

構造改革と韓国経済

金 宗 炫

(新潟経営大学経営情報学部教授)

韓国の財閥は、過去 30 年余年にわたる工業化過程で、政府の各種支援に支えられながら急成長し巨大化した。財閥は、多産業部門にわたって事業を展開しながら、企業の外形的拡張戦略を追求した。それに必要な資金は、銀行からの借入によって調達された。その結果、企業の財務構造は大きく悪化した。特に近年における過剰投資は、企業の金融費用を高め、利益率を低下させた。民主化の進行とともに、労働賃金も大きく上昇し、企業の労働費用も高まった。不況が進み多くの企業が経営不振に陥るなかで、それらの企業に多額の資金を貸し付けていた銀行は、不良債権を抱えることになり、外国銀行は、韓国の銀行から資金を引き上げ始めた。韓国の外貨準備は、危険な水準にまで低下し、IMF から資金を借り入れなければならなくなった。

韓国の、現在の経済的困難は、根本的には開発年代に形成された韓国型経済システムが、経済的与件の変化に自から柔軟に調整、対応しえなかったことに起因する。そこで現在、韓国では金融、財閥企業、労働市場について構造改革が行われつつある。

講義は、その構造改革の内容と、改革下の経済動向について述べたものである。